

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 『自他共に大切にすることを育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』
- 自ら学び続け、自分の考えを深める子を育てます。(知)
  - 自分も友だちも大好きな、あたたかい子を育てます。(徳)
  - 自分の心と体を見つめ、健康で安全な生活習慣をつかっていく子を育てます。(体)
  - まちの人やもの、自然とのかかわりを大切に、共に生きる子を育てます。(公)
  - 様々な社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開)

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力

【自分づくりに関する力】

自分で決める力 つながりを考え合意形成する力  
粘り強く学習に取り組む力 地域を理解する力

中期取組目標

- 子どもが自信をもって主体的に行動し、安心して生活できる学校をめざします。
- ・わかる、できるを実感できる、楽しい授業づくりを推進し、学力の向上を図ります。
- ・一人ひとりが自己有用感を持ち、楽しく学校生活を送れるように環境調整に努めます。
- ・健康な心身をつくるための生活習慣の形成を推進します。
- ・他者を思いやり、他者と関わり、協働することの喜びを感じられる心を育てます。
- ・まちのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	①児童が、めあてをもち、思考し、振り返る過程を大切に、児童自身が1時間での成長を実感できるような学習展開を工夫する。②「わかる・できる」を実感することを優先する」という視点を明確にもって授業を見合う。③読書習慣や基礎基本の定着に向けての取組を進める。
担当	学力向上推進部

学力向上に関わる本校の状況

- 市学力学習状況調査結果より
  - ・ほとんどの学年で、市の平均を下回っている
  - ・学習意識は、教科や学年による差が大きい
  - ・学力のすべての観点で、市の平均を下回っている
  - ・「C層」、「D層」が、市と比べて全教科で12〜14ポイント多く、下位層が多い
- 職員の観察結果より
  - ・基礎、活用ともに低く、学習への興味も低い
  - ・深い思考力や読解力に乏しい
  - ・自信をもった発言ができる子が少ない
  - ・宿題を課すと、ほとんどの児童が取り組んでいる
  - ・家庭の協力が得にくい児童が少なくない

今年度の目標

- ・基礎学力を身につける取り組みを軌道に乗せる
- ・どの子も「わかる・できる」を実感できるような授業をつくる

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のモジュール学習における、国語や算数の取り組み方を児童が理解できるようにシステム化する</li> <li>・全教員による授業公開を、効率的に行う</li> <li>・本校の課題や必要な取り組みに合う研修を実施する</li> <li>・「ノート指導」や「学習スタンダード」の共通理解を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のモジュール学習の改善点を明確にし、より効果的な方法で継続する</li> <li>・授業公開や研修での学びを共有する場を設定する</li> <li>・「ノート指導」や「学習スタンダード」の改善点を明確にし、より効果的な方法で継続する</li> </ul>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①温かい人間関係や自己肯定感を育むために親和的な学級・学年づくりに努める。②たてわり活動などのつながりを意識し、年間を通して意欲的に活動できるようにする。③目指す姿を具現化するために、ねらい→活動→振り返りのスパイラル化を図る。
担当	児童活動部

豊かな心に関わる本校の状況

- YPアセスメントの結果より
  - ・どの学年においても自己肯定感が低い児童が多い傾向がある。
- 職員による観察結果
  - ・最高学年となる6年生は、たてわりへの責任感を果たす意欲は高い。
  - ・他学年の児童と関わりことを好む傾向がある。
  - ・座学より活動から学ぶことがある児童が多い。
  - ・つながりを大切に、関わり合うことで他者理解へとつながる傾向がある。

今年度の目標

- ・年間を通して、学年、ブロック、ペアなどの異学年交流を行い、親和的な人間関係を育むようにする。
- ・目指す姿を具現化するために、明確なねらい→ねらいに合った活動→今後につながる振り返りのスパイラル化を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した「目指す子ども像」を職員間で共通理解を図る。</li> <li>・たてわり活動を進める中で、子どもたち自身がたてわり活動を行うよさや楽しさを実感する活動を取り入れていく。</li> <li>・明確なねらい→ねらいに合った活動→今後につながる振り返りのスパイラルの流れを職員間で共通理解し、子どもたちも知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通理解を図った「目指す子ども像」の具現化のために必要な活動を教職員で練る。</li> <li>・子どもたち自身がたてわり活動を行うよさを実感し、これからの活動をよりよくするためのアイデアを子どもたち自身が出していく。</li> <li>・明確なねらい→ねらいに合った活動→今後につながる振り返りのスパイラルの流れを職員間で共通理解し、子どもたちも知る。</li> <li>・全校たてわり活動に向けて、他学年の児童と関わる中で、班の仲を深める。</li> <li>・ありがとうパーティーでは、リーダーである6年生への感謝の気持ちが伝わるように1年生から5年生で準備を進める。</li> </ul>

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①カリキュラムの意図を把握し、体育科学習の充実を図ると同時に、他教科との関連を図った取り組みを実現することで実践的な活動の場を生み出せるようにする。②健康や食に関するめあてをもち、実態に応じて休み時間の外遊びの奨励、給食指導の充実や改善を図る。③委員会を中心として、休み時間を活用した、運動への関心を高める活動を年間を通して行う。
担当	児童活動部

健やかな体に関わる本校の状況

- (1)健やかな体に関わる児童の実態
    - 横浜市体力・運動能力調査では、令和元年度の体力・運動能力のチャートを見ると、平均よりも上回っている学年が多あるが、令和3年度の体力・運動能力のチャートを見ると、平均を下回っている学年がある。
    - 「運動やスポーツの実施状況」については、実施している児童が多く、生活の中で運動やスポーツと関わりながら過ごしていることがわかった。
    - 生活実態では、睡眠時間が十分に足りていない学年も多ある。また、調査の結果から、本校は朝食を食べてこない児童が多いたことがわかった。
    - このことから、2年の間に体力・運動能力が低下している学年があるが、コロナ禍による運動や遊びの制限による低下だけではなく、基本的な生活習慣の乱れも原因の一つと考えられる。
- 
- (2)これまでの学校の取組状況
    - 委員会が中心となり、休み時間に運動や遊びへの関心を高める活動を行うことにより、自然と外遊びをする児童が増えた。
    - 運動会に向けた学習では、異学年が密接に関わり合う機会を意図的に設け、互いに課題を見出し、仲間とともに解決できるようにしてきた。

今年度の目標

- 児童の体育・健康面の姿から課題を明確にし、体育科・保健体育科の学習を中心としながら、仲間と関わり合い、解決することで、健やかな体の育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科学習では、めあてをもって運動や活動に取り組みながら、健康・安全について知識や基礎的な技能を身に付け、仲間とともに進んで運動に取り組む子を育てる。</li> <li>・夏季水泳教室では、全学年が参加できる機会を設け、水遊び・水泳学習への関心を高める。</li> <li>・健康な生活の実践力を育む保健学習。</li> <li>・学級活動(2)「歯」「食」を中心に「日常生活への適応及び健康や安全に関すること」の学習の充実。</li> <li>・教育活動全般を通して自分の健康を見つめ、自分の健康・安全な生活習慣をつかっていく子を育てる。</li> <li>・運動委員会や集会委員会を中心に、年間を通して運動を楽しむことができるよう、中休みを利用した体力づくりを提案し実施するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WSC(運動会)では、体育学習の発表の場として、各学年に応じた学習内容を競技として指導する際に生かすことができるようにする。また、学習の際には、意図的に異学年の小グループを作り、互いに課題を見出し、解決するように設定する。</li> <li>・元気で安全に学校生活を過ごせるように、心や体の健康について、年度毎にテーマを決めて話し合う場として「すくすく会議」を設定し、その話し合いの結果をもとに取り組んでいる。また、中学校とも連携し、児童生徒の健康課題にあったテーマを決め、解決に向けた話し合いをしている。</li> <li>・運動委員会を中心に、「体力向上」をテーマに、中休みを利用した体力づくりを提案し実施するようにする。</li> </ul>